



○ 薬剤使用中または

予防接種後の献血について

献血は病気の治療や手術などで輸血や血漿分画製剤を必要としている患者のために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。輸血に使用する血液は、まだ人工的に造ることができず、長期保存することもできません。また、近年、血漿分画製剤のひとつである免疫グロブリン製剤の必要量が急激に増加しています。このため、輸血等に必要な血液を確保するためには、一時期に偏ることなく、1日あたり約14,000人の献血が必要とされています。

しかしながら、献血により得られた血液は「医薬品」として使用されるため、血液の安全性を考慮して様々な基準が設けられています。特に服用薬に関しては種類や服用期間によって献血できない場合があります。

そこで今回、薬剤の服用中や予防接種後の献血基準について以下に紹介します。



※医薬品名は当院採用薬を記載（臨時採用薬は除く）

1. 当日服用していても献血可能な薬剤	
ビタミン剤	貧血治療薬、ビタミンKを除く。
ミネラル剤	貧血治療薬を除く。
漢方薬	肝疾患、感冒、喘息等のために服用している場合を除く。
高尿酸血症治療薬	アロプリノール、ベンズブロマロン等。
高脂血症治療薬	イコサペント酸エチル、ロトリガ等。
花粉症治療薬	エンペラシン等を除く。（ステロイド含有薬は、服用中止後3日以上経過後献血可）市販の抗アレルギー薬は当日服用可。
胃腸薬	感染性下痢症のある場合を除く。（制吐剤は当日不可）
低用量・中用量ピル（女性ホルモン）	避妊目的や更年期障害や月経困難症等の補充治療法に用いている場合、低用量ピルの服用は献血可。月経移動（周期変更）・機能的出血を目的に服用する中用量ピルも献血可。

1. 当日服用していても献血可能な薬剤	
サプリメント	栄養補助食品。
抗潰瘍剤	潰瘍予防として用いている場合は献血可。現在、消化性潰瘍のある場合は治癒するまで献血不可。逆流性食道炎治療は献血可。
緩下剤	アローゼン、センノシド、テレミンソフト等。
降圧薬	心、腎、血管系の合併症がないこと。 高血圧症の治療薬として複数服用でも献血可ではあるが、血圧がほぼ正常にコントロールされていることが条件。当日の血圧を考慮する。
過敏性腸症候群治療薬	イリボー、セレキノン、ポリフル、リンゼス等。 (抗うつ薬でなければ献血可)
局所投与の薬物	点鼻薬、点眼薬、吸入、外用薬 (塗り薬、貼り薬)。

2. 当日服用していなければ献血可能な薬剤 (前日まで服用可)	
内服用筋弛緩剤	エペリゾン、チザニジン、リオレサル等。
睡眠薬・抗不安薬 (安定剤)	原疾患、体調が参考とされる。
前立腺肥大治療薬	ザガーロ、デュタステリド、プロペシアを除く。
利胆剤	ウルソデオキシコール酸、スパカール等。(基礎疾患による)
市販薬	(1) 抗生剤のはいっていない風邪薬：当日、症状がないこと (2) 市販の消炎鎮痛剤 (但し、(1)(2)ともに血小板成分献血は服用中止後3日以上経過後に献血可)
去痰剤	疾患により症状が落ち着いていれば当日献血可能な場合あり。
消炎鎮痛剤	血小板成分献血以外の場合は、症状がなく落ち着いていれば前日までの服用は献血可。血小板成分献血は、服用中止後3日以上経過後献血可。

3. 最終服用日を含む3日間は献血できない薬剤

注) 最終服用日を「1日目」とカウントし、「4日目」から献血可

抗精神剤、抗うつ病 (抗不安剤、 安定剤を除く)	体調が参考とされる。
抗菌薬、抗真菌薬、 抗ウイルス薬	当日、症状がなく治癒していること。
止瀉剤	アドソルビン、タンニン酸アルブミン、ロペラミド塩酸塩等。 (感染性下痢症に注意)
喘息治療薬	キサンチン誘導体等の服用、 $\beta 2$ 刺激薬 (吸入薬、貼付薬を含む)。 1ヶ月間発作がなく発作予防的吸入のみであれば献血可能。
痛風発作治療薬	コルヒチン
事後に服用するピル	中用量ピルを含む。
花粉症治療薬	ステロイド系抗アレルギー薬 (エンペラシン等)。

4. 献血できない薬剤

抗けいれん薬	抗凝固薬・血小板凝集抑制薬
抗甲状腺薬	抗不整脈薬
冠拡張薬(降圧のみを目的とする場合は 1. (当日服用していても献血可能な薬剤) に準じる)	強心薬等
治療用ホルモン薬 (ステロイド等) : 1ヶ月間献血延期	免疫抑制剤 : 1ヶ月間献血延期
抗がん剤 : 無期献血延期	乾癬治療薬 (チガソン : 無期献血延期)
前立腺肥大症治療薬 (ザガーロ、デュタステリド : 6ヶ月間献血延期 プロペシア : 1ヶ月間献血延期)	



5. 一定期間内に予防接種を受けた場合

- * 予防接種前の献血は制限なし
- * 接種後の症状が残るなど体調がすぐれない場合は献血を控える。アナフィラキシーショックのような重篤な症状を起こした場合は、症状出現後1年間は献血を控える。

インフルエンザ、日本脳炎、コレラ、A型肝炎、肺炎球菌、百日咳、破傷風等の不活化ワクチンおよびトキソイド	接種後24時間は献血不可
B型肝炎	接種後2週間は献血不可
抗HBs人免疫グロブリン	投与後6ヶ月間は献血不可
狂犬病ワクチン（動物に噛まれた後）	接種後1年間は献血不可
おたふくかぜ、風疹、BCG等の弱毒生ワクチン	接種後4週間は献血不可
天然痘ワクチン	接種後2ヶ月間は献血不可
破傷風、蛇毒、ガス壊疽、ボツリヌスの抗血清の投与	投与後3ヶ月は献血不可
新型コロナウイルスワクチン	
RNAワクチン（mRNAワクチンを含む） （ファイザー社、武田/モデルナ社）	接種後48時間は献血不可
ウイルスベクターワクチン （アストラゼネカ社）	接種後6週間は献血不可

ただし、献血に協力できるか否かの判断は、薬の種類だけでなく、本人の体調、服用目的、症状等を考慮して、検診医が最終的な判断を行います。



参考資料)

- ・ 日本赤十字社 HP
- ・ 日本赤十字社 高知県赤十字血液センター HP
- ・ 日本赤十字社 山梨県赤十字血液センター HP
- ・ 日本赤十字社 愛知県赤十字血液センター HP

より抜粋・加筆